

支援する会ニュース

2022. 6. 9 NO. 84

韓国・金属労組慶南支部 韓国サンケン支会
韓国サンケン労組と連帯する埼玉市民の会
韓国サンケン労組を支援する会

東京都台東区上野 1-12-6 3階
中小労組政策ネットワーク気付
Tel:03-5816-3960 fax:03-5812-4086

6・24 本社株主総会に怒りの声をぶつけよう！

6月2日、第83回木曜行動がのべ70人余の参加で行われました。6月5日(日)は和田会長と高橋社長の自宅にそれぞれ韓国サンケン労組の手紙を伝達、自宅前で韓国サンケン労組が訴え、周辺住民への各戸ビラ入れも行いました。5日は大阪で「統一マダン生野」が開催、尾澤さんも参加して訴えました。6日(月)には埼玉市民の会のスタンディング、その後パートナー企業の菱電商事、東和電機への要請行動、丁寧な対応でした。以下、木曜行動の報告。

〔本社正門前〕



支援する会の仲間の発言で行動開始。韓国からペクウンジュさんが「ソウルのサンケンコリア前でもテントを張っている。私達と話し合うよう何度も要請を行っているが、

サンケンコリアの中からは誰も出てこない。事務所にはガラスで仕切られたドアがあり、そのドアは閉じられたまま、ガラス越しにカメラで私達の様子を撮っているのが分かる。サンケンコリアにはサンケンのマークがあるので私達が働いていたことを思い出す。私達は一時期は同じサンケングループの一員として働いてきた。しかし私達が透明人間かのように知らぬ存ぜぬとサンケンコリアも一貫している。私達はやむなくソウルのサンケンコリアのドア越しに要請文を置いて引き返すことを何度も繰り返している」とソウルの状況を報告しました。韓国からはキムウニョンさん、キムヒョンガンさんもアピールしました。埼玉市民の会、旭ダイヤ労組のアピールが続き、シュプレヒコールで志木駅へ。

〔志木駅南口前〕



埼玉市民の会の発言でスタート。韓国からイヘミンさんが「多くの人たちに私達の状況を訴えるべく、街角で一人一人に話しかけている。暑い日が続くので帽子を被って、通りすがりの人にビラを渡し、スタンディングをしながら私達の状況を訴えている。横断幕をもって立っていたり、

プラカードをもってスタンディングをしたりすると、通行人の出勤姿に自分たちも出勤したい、働いていきたいとの思いが強くこみ上げてくる」と報告しました。ヤンソンモさんも「私達の力だけでは足りない。また、日本にも多くの労働組合、そして、市民社会の人達が私達を支援し

てくれているが、その力だけでも足りない。地元の多くの方々、志木駅ご通行中の皆さんの支援があつてこそ、サンケン電気の不当なやり方が撤回できる」と訴えました。サンケン太郎、ゆいの会の『アリラン』、京浜ユニオン、明大生協労組のアピールと歌で行動を終了しました。

〔池袋・東京事務所前〕

渡辺共同代表の挨拶でスタート。韓国からキムヒョンガンさんが「サンケン電気は韓国に子会社があるのに、別に160億ウォンもかけて別の工場を作った。よその工場に投資する資金がある



なら、真っ先に韓国サンケンに投資すべきだ。韓国サンケンは外国人投資企業として税金の優遇などさまざまな優遇を受けてきた。韓国サンケンの工場は何と1坪90円ぐらいという安さで大きな利益を得てきた。他の工場に回す資金があれば、韓国サンケンの廃業はなかったはずだ」とサンケン電気を批判しました。日本側からは、尾澤孝司さん、埼玉市民の会、韓青同、全労働者組合ユニテッド航空闘争団、山日労がリレートーク。怒りのシュプレヒコールで終了しました。

尾澤裁判の勝利に向けて

尾澤裁判の無罪判決を目指し、さいたま地方裁判所へのハガキと署名活動を展開中です。署名は5月31日までに1,490筆のご協力をいただきました。6月6日の公判前手続では公判日は決まらず、秋口の見通しです。

「尾澤孝司さんを支える会」の報告会「尾澤さんは無罪だ」が開かれ、弁護団からの報告があります。

とき：6月12日(日) 14時～16時半

ところ：葛飾区青戸地区センター4階ホール